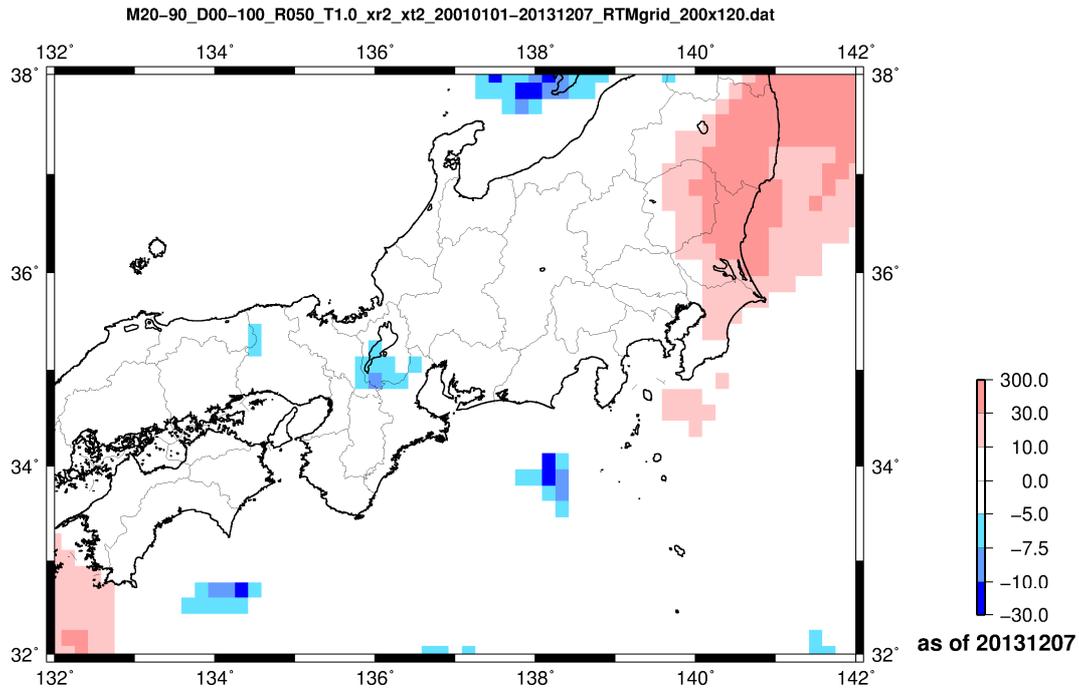


東海・中部・近畿地方の状況

前回、前々回のニュースレターで、“地震活動のチェーン” という新しい言葉（概念）をお知らせしました。この用語の説明はまた改めてウェブ等でも行っていききたいと思います。

また関西圏の情報ですが、これからはしばらく京都を中心とした関西圏は十分注意が必要と考えます。

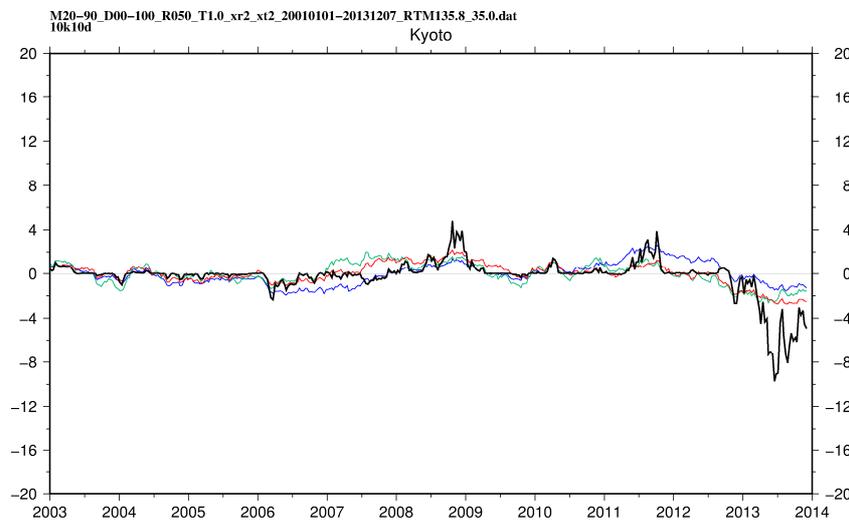
下の図は 2013 年 12 月 7 日時点の地下天気図の一つです。この図では関西地方には大きな青い領域（静穏化領域）は広がっていませんが、実は現在は静穏化が解消しつつある段階なのです。



それを知るためには、地下天気図（RTM 法）の時系列変化というものを見る必要があります。

上の地図は“ある時点”（＝ある瞬間）における地震活動の静穏化／活発化を表現しています。

それに対し時系列変化というのは、ある地点における地震活動の推移の時間変化を表したもので、たとえば京都ですとか、名古屋、長野など位置を指定して計算する事ができます。なぜ京都周辺かと言いますと、下の図のように 2003 年からの 10 年間のデータを見ますと、現在静穏化から回復しつつあり、過去の経験則に照らして、内陸で M6 クラスの地震が発生する可能性が高くなっていると考えています。



今回は同時に「地下天気図の見方」という pdf ファイルも同時に配布させていただきます。